

高齢者支援 「いこい」 開設

設当初からの利用者は、26年の歳月を経て高齢期を迎えるようになりました。老化には個人差がありますが、知的に障がいがある方は一般に老化の早い事が知られています。40歳で急激に老化が進み高齢者に一般に見られる老化現象が50歳代でほぼ全員に現れる傾向にあるといわれています。

日中活動や身体維持向上を支援することにより、その人なりの自立した人生が送れるようにその一役を担う目的として6月から高齢者支援の場「いこい」を立ち上げました。

現在、60歳以上の高齢者及び準ずる利用者は友愛の里利用者4名、地域生活者（在宅生活者含む）14名がいますが、いこいを利用して居る方は今のところ、友愛の里利用者3名、地域生活者は4名の計7名です。

デイサービス機能も踏まえ、入浴、食事、レクリエーションなどのサービスを提供する事で今までとは違った生活環境の下で気分転換を図れる事が出来れば

わが国の高齢化はきわめて早いスピードで進行して、清水友愛の里の利用者も例外ではなく、昭和58年の施設開



洞爺湖へのバスドライブ



貼り絵を楽しむ

と考えています。

活動内容としては、

- ① 貼り絵、手工芸、絵などの創作活動
- ② ラジオ体操、散歩、体力測定等、身体機能の維持、回復訓練
- ③ カラオケ、誕生会、買い物、バスドライブ、温泉入浴、映画鑑賞などの余暇活動

活動を通して利用者本人の身体的、精神的な状態を十分に把

握しながら臨む事が大切になってきます。加齢とともに低下していく身体機能や精神状態を受け入れながら、楽しさの体験を積み重ねる中で自信回復を目指していきます。気晴らし、楽しみ、英気を養う、癒す事で「生活の質」を高める事が出来るよう支援して行きたいと考えています。また活動して日も浅く、試行錯誤を繰り返しながら、どのような支援が、利用者の笑顔を引き出すことができるのかを考える日々です。

ある日の出来事を紹介します。天気の良い日に、散歩に出かけた時の事です。施設開設当初から利用している方と昔の思い出話をしながら歩いていると、普段は無口な方ですが、当時の事を思い出してこの場所には昔何があったなど、懐かしい色々なお話を聞かせてくれました。その人は「いこい」を利用するようになってから、優しい笑顔を見せてくれるようになり、表情にも変化が見られてきています。「いこい」を利用するようになってから、優しい笑顔を見せてくれるようになり、表情にも変化が見られてきています。

「いこい」の利用者にとって

の楽しみ方の一つは、月、水、金の午後からの入浴です。地域生活者にとっては、普段は一般家庭の浴槽に浸かっているため、大きな浴槽は温泉気分が入浴でき、とても気持ちが良いとの感想が聞かれています。夕方の4時には帰宅準備を行い殆どの利用者は次の日を楽しみにして帰られているようです。

今後必ずすべての人が人生を楽しむ権利があるとの理念に基づいて、利用者の状況に対応できるような個性性と多様性がある支援を心掛けていきたいと考えています。



体力測定の様子